

■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]	■ 単位数
	農山村地域論[Rural Area Study]	1

■ 担当教員(責任)[ローマ字表記]

笠松浩樹 Hiroki Kasamatsu

■ 担当教員[ローマ字表記]

笠松浩樹 Hiroki Kasamatsu

■ 授業題目(必須入力)

農山村地域論[Rural Area Study]

■ 授業のキーワード(必須入力)

農山村、地域社会、共同体、集落、過疎高齢化、経済循環

■ 授業の目的(必須入力)

歴史の節目ごとに生業、暮らし、文化が発展・衰退してきた農山村について、地域社会と生業の変遷を俯瞰する。暮らし、文化、生業、共同体等を一体的なものとしてとらえ、これらが地勢や時代背景によって多様な状況を理解する。特に、地域社会を運営する最小単位である集落に着目し、高度経済成長期以降の過疎高齢化によって生じた諸問題を概観するとともに、地方創生に関連して経済循環について述べる。

■ 授業の到達目標(必須入力)

- 農山村社会の変遷と現状、問題を理解することができる。
- 共同体の意義とあり方を理解することができる。
- 地域社会にとどまらず日本全体の傾向から将来を展望することができる。

■ 授業概要(必須入力)

- 林業の歴史と現状について、具体的な事例を学び現状における地域林業の課題を考察する。
- 新たな技術を利用した森林管理手法を現場に適用し、その結果が関連産業分野や地域に及ぼす波及効果について考察する。
- 地域林業構造を、木材流通面、金銭流通面、構成主体面などの側面から捉え多面的に考察し、その課題を考察する。
- 多様な課題の解決方法について、各種政策を含めて考察し、林業成長産業化に向けた提案を検討する。

■ 授業スケジュール(必須入力)

- 【1日目:4コマ】
- ① 農山村の社会構造と歴史的背景
  - ② 様々な集落のかたち
  - ③ 限界集落問題
  - ④ 資源の供給と農林業
- 【2日目:4コマ】
- ① 世界の農山村の状況
  - ② 小規模多機能自治による新たな地域運営
  - ③ 地方創生の問題点と対案
  - ④ 資源自給の必要性和農山村の意義

■ 授業時間外学習にかかわる情報(必須入力)

講義内容を反復し、理解を深めること。また、内容に即して課題を提示し、て次回の授業で議論することがあるので、自発的に調べて見解をまとめておくこと。

■ 成績評価方法(必須入力)

レポートおよび質問(100点)  
※1日目と2日目それぞれに問題を提示し、その場で記述・提出する。

■ 受講条件(任意入力)

全課程を履修できることが望ましい。

■ 受講のルール(任意入力)

受動的な受講にとどまらず、積極的に質問・議論を行うこと。

**教科書（購入する必要のある図書）（必須入力）**

教科書1	書名	—			ISBN	
	著者名	—	出版社	—	出版年	
教科書2	書名	—			ISBN	
	著者名	—	出版社	—	出版年	

**参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）（必須入力）**

参考書1	書名	—			ISBN	
	著者名	—	出版社	—	出版年	
参考書2	書名	—			ISBN	
	著者名	—	出版社	—	出版年	
参考書3	書名	—			ISBN	
	著者名	—	出版社	—	出版年	
参考書4	書名	—			ISBN	
	著者名	—	出版社	—	出版年	
参考書5	書名	—			ISBN	
	著者名	—	出版社	—	出版年	

**教科書・参考書に関する補足情報（必須入力）**

必要な資料は講義当日に配布する。

**オフィスアワー（必須入力）**

講義前後もしくはメールで対応

**連絡先（必須入力）**

**参照ホームページ（任意入力）**

**その他（任意入力）**

農山村は厳しい状況が続くと言われて久しいが、経済成長に陰りが見えてきた今、その価値を見直す時期にさしかかっている。しかしこれは、社会全体の大きな転換にも及ぶことであり、その実現には大局的な視点が必要である。これまでの常識にとらわれず柔軟な発想を持ち、農山村の意義を考えていただきたい。